

第2

飯南町の特性

1 地域特性

位置と地勢

本町は、島根県と広島県との県境、島根県の南側の玄関に位置しています。また、中国山地の中央部に位置し、北西には大山隠岐国立公園三瓶山、東には大万木山などの山々が連なり、みどり豊かな自然に囲まれた高原の町です。

女亀山を源流とする神戸川、斐伊川、江の川に清流がそそぎ、その流域に耕地が広がっています。

■ 飯南町の位置



歴史・沿革

本町では、縄文時代から近世にかけての貴重な遺物が発見されており、太古からの人間生活の跡がうかがえます。

「出雲国風土記」によると、飯石郡には「あわせて郷七」とあり、本町は来島郷、波多郷の二郷に属していたと考えられます。

戦国時代には、出雲の守護職尼子氏と隣国毛利氏との戦いの激戦地となりました。江戸時代には広瀬藩陣屋が置かれ、奥飯石 21ヶ村の政治・経済・文化の中心地でした。また、出雲、石見、備後の三国にまたがる陰陽交通の要衝として、大森銀山からの幕府の銀の輸送や石見から備後へ魚類等の輸送が盛んに行われるなど、陰陽を結ぶ街道の宿場町とし

て栄えました。産業面では、たたら製鉄や良質米の産地として知られていました。

明治 22 年の町村制施行によって、この地域に「赤名村」「来島村」「谷村」「頓原村」「志々村」が誕生しました。昭和 9 年に赤名村は「赤名町」、昭和 24 年に頓原村は「頓原町」に改めました。その後、昭和 28 年に赤名町と谷村が合併し、昭和 32 年には赤名町と来島村が合併して「赤来町」が、頓原町と志々村が合併し「頓原町」がそれぞれ誕生しました。そして、平成 17 年 1 月に頓原町と赤来町が合併し、「飯南町」が誕生、現在に至っています。

土地

本町の総面積(242.84 k㎡)のうち、91.32% (221.75 k㎡) は山林・原野等が占めています。

田は 5.62% (13.65 k㎡)、畑は 0.83% (2.02 k㎡)、宅地は 0.70% (1.69 k㎡) となっています。

■ 飯南町の土地利用

平成 17 年 4 月現在

土地利用面積	総面積	田	畑	宅地	池沼	雑種地	山林原野等
	242.84k㎡	13.65k㎡	2.02k㎡	1.69k㎡	0.08k㎡	3.65k㎡	221.75k㎡
構成比	100%	5.62%	0.83%	0.70%	0.03%	1.50%	91.32%

(資料：固定資産税概要調査)

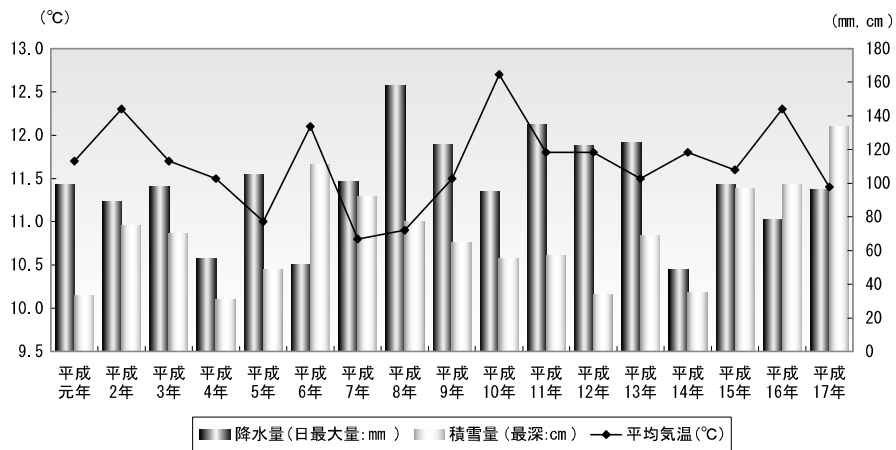
気 候

本町は、県下でも有数の高冷地帯です。年間平均気温は、11～13℃と低く、冬は寒さが厳しく、反面夏は涼しく過ごしやすい気候です。

降水量は、年間約 2,000mm となっ

ています。積雪量は県下で最も多く、近年の積雪量は約100cm ですが、平成17年12月からの平成18年豪雪では134cmの最深積雪を観測しました。

■ 飯南町の平均気温・降水量・積雪量



(資料：島根県統計書)

交 通

本町の中心には、松江市と広島市を結ぶ国道54号が縦断しており、幹線道路として重要な役割を担っています。出雲市方面へのアクセスは、国道184号が通っています。

また、近隣市町へのアクセス道路として、6つの主要地方道と県道があり、町内の地区を結ぶ広域農道や広域林道が通っています。

■ 飯南町の道路網



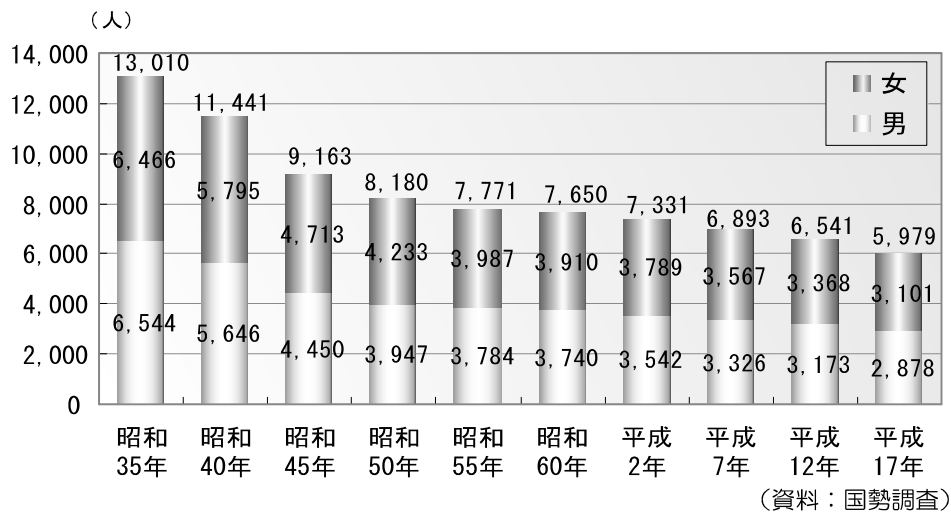
2 人口特性

人口

本町の人口は、平成 17 年国勢調査によると 5,979 人となっています。これは、昭和 35 年の 13,010 人の約 46%

となっています。近年も、男女ともに減少傾向にあり、過疎化・高齢化に歯止めがかからない状況にあります。

■ 飯南町の人口推移

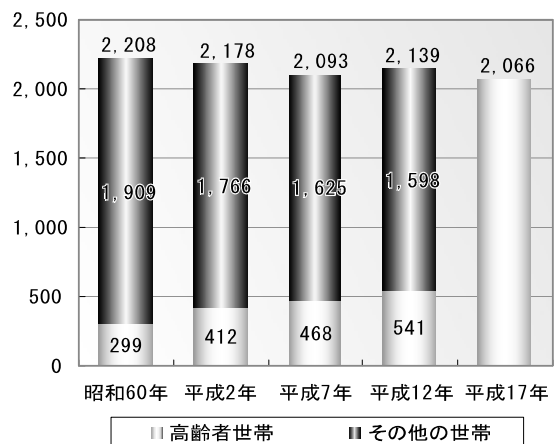


世帯数

本町の世帯数は、平成 17 年で 2,066 世帯となっており、横ばいからやや減少傾向にあります。

また、高齢者世帯は、平成 12 年の国勢調査では 541 世帯となっており、昭和 60 年から平成 12 年の 15 年間で概ね倍増しています。

■ 飯南町の世帯数の推移



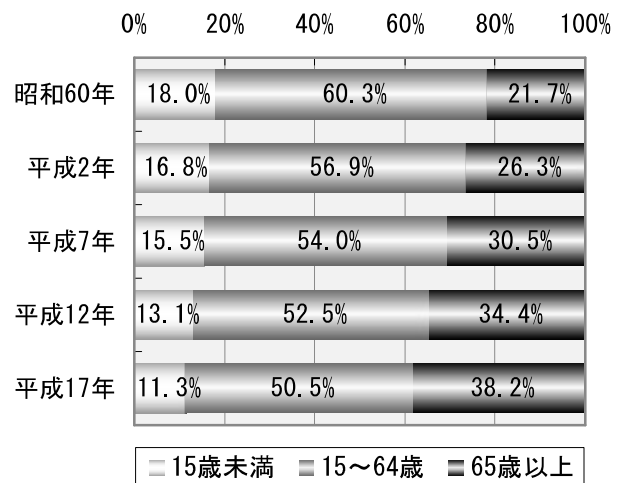
※平成 17 年度は速報値

年齢別人口

年齢区別の人口構成比は、平成17年では15歳未満が11.3%、15～64歳が50.5%、65歳以上が38.2%となっています。

また、5歳階級別人口をみても分かるように、少子高齢化が進行していること、生産年齢人口が減少し続けていること、若者の流出が続いていることがうかがえます。

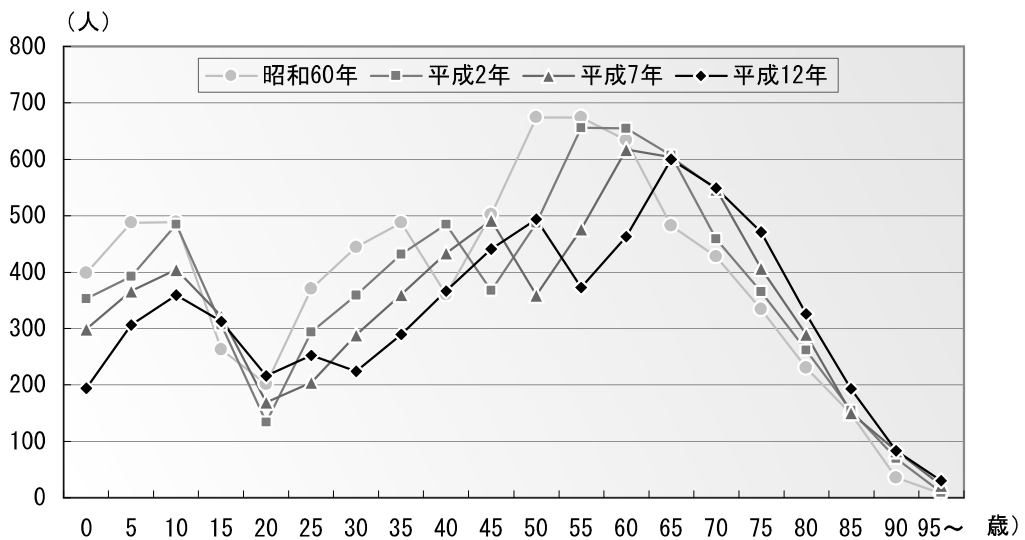
■ 飯南町の人口構成比の推移



(資料：国勢調査)

※平成17年度は、速報値

■ 飯南町の5歳階級別人口の推移



(資料：国勢調査)

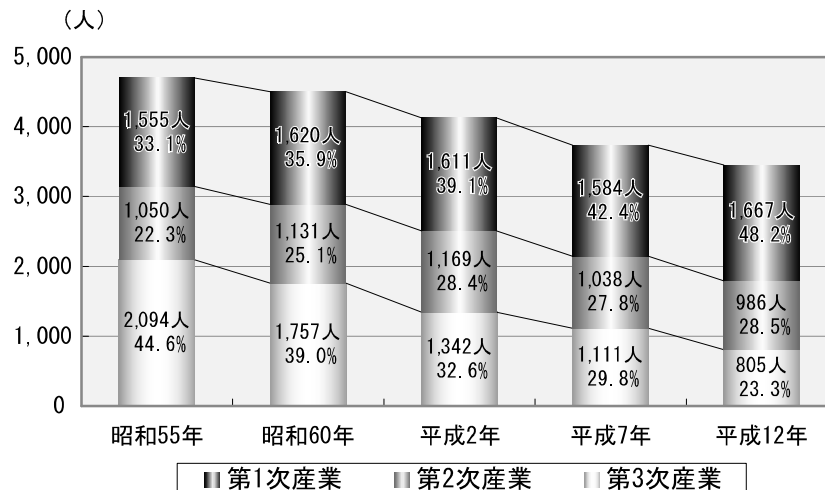
3 産業特性

就業人口

本町の産業別就業者数は、平成12年で第1次産業就業者が805人(23.3%)、第2次産業就業者が986人(28.5%)、第3次産業就業者が1,667人(48.2%)

となっています。第1次産業就業者数が減少し、第3次産業就業者数が増加の傾向にあります。

■ 飯南町の産業別人口構成比の推移



(資料：国勢調査)

■ 飯南町の産業別就業者数の推移

		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
第1次産業	人口	2,094	1,757	1,342	1,111	805
	就業者数					
第2次産業	人口	1,050	1,131	1,169	1,038	986
	就業者数					
第3次産業	人口	1,555	1,620	1,611	1,584	1,667
	就業者数					
	構成比					

(資料：国勢調査)

※第1次産業…農業、林業、漁業

第2次産業…鉱業、建設業、製造業

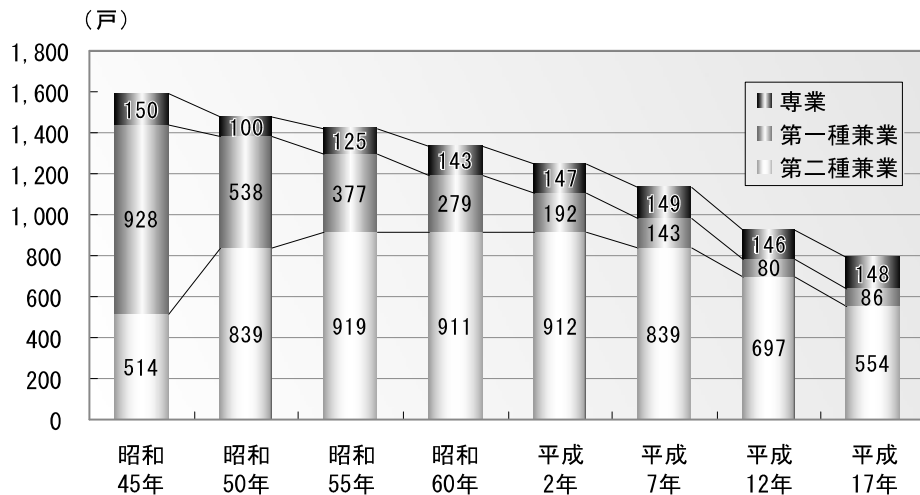
第3次産業…電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業、公務

農業

県下の「良質米」の産地、全国に名が知れる「島根和牛の本場」として、現在の農業が築かれてきました。しかし、平成 12 年の農家戸数は 923 戸と年々

減少し、農産物の輸入自由化による米価・子牛価格の低迷から農業従事者の高齢化や後継者不足が続いています。

■ 飯南町の農家戸数の推移



※平成 17 年は概算値
(資料：農業センサス)

商工業

国道 54 号の旧道沿いに形成されてきた商業地は、地域内で営業する商店が少なくなり、商店街としての形態をなせない状況にあります。近年、新たな店舗は国道 54 号沿道に進出しています。

また、工業については、これまでいくつかの誘致企業が進出しましたが、昨今の日本経済の構造不況から、事業所数や従業員数も減少傾向にあります。